

令和8年度第1回東松島市総合教育会議議事録

日 時 令和8年8月18日（火）午後3時から午後4時

場 所 東松島市役所 3階 301会議室

出席者 東松島市長 渥美 巖
東松島市教育委員会 教育長 相沢 進
東松島市教育委員会 教育委員 木村 和彦
東松島市教育委員会 教育委員 福田 ゆかり
東松島市教育委員会 教育委員 松岡 勝久

傍聴者 8人

次 第

1 開会

2 あいさつ 東松島市長 渥美 巖

3 議題

（1）報告事項

- ①「業務量管理・健康確保措置実施計画」について
- ②学校プール及びゆふと利用状況について
- ③令和8年度中総体・吹奏楽コンクール東松島市内中学校結果について
- ④東松島市教育支援センター（ひがまつBASE）の現状について
- ⑤大曲小学校新校舎完成後及び仮設校舎等解体工事日程について
- ⑥学校給食無償化に係る非喫食者保護者に対する負担軽減について

（2）協議事項

- ①学習状況調査の結果と本市の学力向上の取組について
- ②目指す「15歳の姿」を共有した幼保小中連携の取組

4 閉会あいさつ 東松島市教育委員会教育長 相沢 進

5 閉会

事務局（総務課）

ただ今から、令和8年度第1回東松島市総合教育会議を開会いたします。開会にあたりまして、渥美市長からご挨拶を申し上げます。

渥美市長

本日はお忙しい中、第1回総合教育会議に、教育委員の皆様にお集まりいただき、誠に

ありがとうございます。

夏休みも残すところ今週末までとなりましたが、今年は例年よりも前後に土日祝日を挟んだ関係で、長い夏休みとなりました。この間、今年で3回目となる小学5年生の大田区子ども交流や、今年から初めて実施した中学1年生の東松山市子ども交流、また小学5～6年生による北海道更別村との「海と大地子ども交流」など、友好都市との交流によって、貴重な体験を積んだのではないかと考えています。また、石巻広域行政が主催した中学3年生による「おにぎり大使派遣団」についても総勢32名のうち、本市から6人参加し、7日間にわたってオーストラリアでホームステイなど、研修してきており、午前中に市役所で参加報告を受けております。

さらに、中総体の県大会や全国大会に出場した生徒もおりまし、今年から夏休み期間のプールは、天候に左右されることなく利用できる「ゆぷと」を無料解放したため、多くの子どもに利用いただいたようです。

加えて、令和5年度から着手していた大曲小学校建替え工事について、このほど完成し、9/3午後1時15分から落成式を執り行うこととしております。新校舎には、東西に外階段を設置し、垂直避難が可能となっているほか、防災備蓄倉庫や発電機置き場なども備え、防災機能を強化した校舎となっておりますので、地域の皆様にも安心していただけるのではないかと考えております。

また、小学校学校給食費について、今年から国の補助もあり完全無償化としておりますが、アレルギーや不登校などで食べない子どもへの給付に関する新聞報道が8/11河北新報の1面に出ております。本市でも今後、給付を行うこととしており、後ほど詳しくご説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

本日は、報告事項6件、協議事項2件と限られた時間ではありますが、委員皆様と様々な意見交換をおこなっていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局（総務課）

それでは議題に入ります。東松島市総合教育会議運営要綱の規定に基づき、市長を議長として進行します。渥美市長よろしくお願いいたします。

渥美市長

それでは、要綱の定めるところによりまして、議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。早速議題に入ります。はじめに、はじめに、議題（1）報告事項、

①「業務量管理・健康確保措置実施計画」について

②学校プール及びゆぷと利用状況について

③令和8年度中総体・吹奏楽コンクール東松島市内中学校結果について

④東松島市教育支援センター（ひがまつBASE）の現状について

⑤大曲小学校新校舎完成後及び仮設校舎等解体工事日程

⑥学校給食無償化に係る非喫食者保護者に対する負担軽減について、一括して事務局から報告いたします。

事務局（教育総務課）

資料1ページ～11ページ説明。

渥美市長

ただ今説明のあった件について、委員の皆様から何かご質問ございませんか。

木村委員

矢本二中のプール水質が不適合となり、その後改善が見られたとのことですが、原因は何だったのでしょうか。来年度も似たような事態が起きる可能性が考えられるため、もう少し詳しく調査していただければと思います。

事務局（教育総務課）

明確な理由は特定できませんでした。改善措置として、洗浄機の稼働や薬品の量を増やすなどの調整を行い、再検査をしたところ適合基準を満たしております。来年度に向けては、プールの準備段階から早めの水質対策・措置を取るよう学校側と連携していきます。

松岡委員

今年、ひがまつベースの利用者が増加したとのことだが、その要因をどのように分析していますか。

事務局（教育総務課）

学校に登校できずに悩んでいる児童生徒自体が増加しているという現状がありますし、それに加え、ひがまつベース側で子どもたちが通所しやすいような行事の工夫や、受け入れ態勢を整えたことが利用増の大きな要因と捉えています。

松岡委員

資料の数字は延べ人数だと思いますが、実際に登録している児童生徒の人数はどれくらいですか。また、学校へ行くための準備段階として、前向きにベースに通いながら状況を整えている状況と認識してよいですか。

事務局（教育総務課）

実際に登録しているのは20名で、そのうち14名が継続的に繰り返し通所しています。すべての子どもが支援センターのみに通所しているわけではなく、場合によっては学校にも行きながら自分の気持ちと向き合い、登校再開に向けた準備として支援センターを利用している状況です。

渥美市長

ほかにご質問なければ、報告事項を終わります。

続きまして（2）協議事項に入ります。①学習状況調査の結果と本市の学力向上の取組について、事務局から説明願います。

事務局（教育総務課）

資料13～20ページ説明。

渥美市長

ただ今説明のあった件について、委員の皆様から何かご質問ございませんか。

鹿野委員

全体的に見ると、英語の伸び悩みがあるように思われます。本市ではイングリッシュキャンプや英検費用の補助など非常に力を入れているにもかかわらず、伸び悩む要因についてどうお考えですか。

事務局（教育総務課）

領域別に見ると、特に「書くこと」の分野に大きな課題がある。知識・技能が定着していないと「書くこと」につながらないこともあります。また、全国の調査結果等からも、中学生になって英語の授業の難しさを感じている生徒が多いことが分かっています。

本市の取り組みとして、今年度年4回実施している外国語指導者研修会にて、小学校・中学校の先生が共同で授業をつくり、小中のギャップをなくす取り組みを進めていきたいと考えています。

また、多文化共生推進コーディネーターやALTの意見を取り入れ、日常的な英語コミュニケーション活動の導入など、9月の指導者研修会でも公開授業を通じて指導力改善につなげていきたい。

鹿野委員

英語に限らず全体として、小学校2年生から3年生の伸びが著しいように見えますが、この要因は何でしょうか。

事務局（教育総務課）

小学2・3年生は以前から良好な結果が出ています。算数を例に挙げると、現在の学習指導要領が改まってから、分数や小数といった「1未満の数」の概念など、つまずきやすい学習内容が小学3年生の早い段階から入ってきてます。そのため、つまずきが顕在化する前の小学2・3年生段階では結果が良好に出やすく、それ以降の学年で凸凹が見え始めるのではないかと推測しています。

福田委員

要因分析がしっかりされており、今後の取り組み方針を聞いて安心しました。授業内容が新しくなる中で先生方も戸惑いがあったと思いますが、一つひとつ丁寧に繰り返し指導を進めてくださったことが、重視すべき「思考力・判断力・表現力」の向上に結びついていると思います。

鹿野委員

各講師を招いての研修等の成果が出ており、今後どれだけ子どもたちが伸びるか非常に楽しみです。大変だと思いますが宜しくお願いします。

渥美市長

中学校の英語で全国平均と10ポイント近い差があるとのことですが、本市は特例認可を

受け、小学1・2年生を含めた全学年で年間30時間以上の英語学習を取り入れ、他の地域より多く勉強させています。例えば現在低学年の児童が5年後に中学1年生になった際、良い結果として表れてくると期待しているところですが、その方向性や予想について伺いたい。

事務局（教育総務課）

低学年からの継続的な学習により、子どもたちが英語に物怖じしない姿勢は確実に育っています（台湾との交流時にも小6児童が積極的に英語で話しかける姿が見られた）。意欲や意識面でのハードルは下がっている一方で、単語や発音といった基礎的な言語スキルを段階的に定着させることや、小中の縦の系統が途切れないようにすることが今後の鍵となります。現在、コーディネーターがその系統立てたプログラムを構築中であり、これが機能すれば学力の凸凹が解消され、プラスの成果につながると考えています。

教育長

4人グループを基本とする「探究と協同の学び」は令和3年1月にスタートし、6年目になります。市内全11校でこの学習環境が定着し、知識・技能面も向上しつつ、これからの激動の社会を生き抜くために必要な「思考力・判断力・表現力」が着実に育っています。

英語については市長のご理解のもと、英検の全額補助やイングリッシュキャンプなど、子どもたちが英語を学びたくなる環境は整っています。今後は小学校から中学校への橋渡しをより強化するため、中学生の教員が小学校に出向いて話し合いをしたり、コーディネーター作成のプログラムを試験的に実施したりして、確かな学力向上に取り組んでまいります。

渥美市長

次に、②目指す「15歳の姿」を共有した幼保小中連携の取組についてを議題といたします。事務局から説明願います。

事務局（教育総務課）

資料21～23ページ説明。

渥美市長

ありがとうございました。何かご質問ございませんか。

松岡委員

現在準備中の5歳児健診についてだが、保護者への説明や教育相談の時間を十分に確保するためには、5歳では遅く、できれば年中の4歳児から健診やアプローチを実施していただきたい。

そのためには臨床心理士の不足がネックであり、仙台からの派遣も含めてスケジュールが全く立たないと聞いています。臨床心理士をもう1名増員・配置していただくよう予算措置していただけないか。

事務局（教育総務課）

教育長からの5歳児健診を早く実施したいという強い思いは昨年の段階から受けており、保健福祉部局（健康推進課）と連携して心理士の確保に奔走しているが、なかなか見つからない状況が続いています。現在の心理士のスケジュールも非常にタイトであり、たしかにもう1名確保できれば健診の対応はかなりスムーズになると思います。

また、心理士だけでなく保健師についても若手が多く、現場での熟練度という課題もありますが、引き続き保健福祉部局と密に連携し、人材確保と現場の対応力向上に努めてまいります。

渥美市長

保護者の中には、できれば地元の小中学校に通わせたいという思いと、特別支援教育の狭間で悩むご家族が非常に多いです。早期支援の観点から1年でも早く（4歳から）やった方がよいということは重々承知しているが、現実的な人材や日程の壁があります。まずは今年度から導入する5歳児健診をしっかりと軌道に乗せ、確実な成果を出すことが第一歩であると考えています。

事務局（総務課）

5歳児健診の実施に向けて、今年度から専任の担当者（課長補佐級）を配置し準備を進めています。まずはこの5歳児健診をしっかりと実施できる体制を整え、成果を出すところからスタートしたいと思っています。必要な予算や人員増については今後の検討課題とさせていただきます。

教育長

本市はこれまで、中学校の教員が小学校を指導する「中学0年生プロジェクト」や、小学生同士の交流など、小中連携に力を入れてきました。それに加え、入学前の保護者の不安を解消し、子どもたちに見通しを持たせるため0歳から15歳までの幼保小中連携の取り組みを進めているところです。

中学校区ごとに設定した「目指す15歳の姿」を幼稚園や保育所の先生方とも共有し、連携を深めていきます。少子化が進む中、「東松島市なら安心して子育てや相談ができる」と若い世代に選ばれるまちであり続けるため、保健福祉部局とも連携しながら、保護者支援と学びの環境づくりを引き続き推進してまいります。

渥美市長

本日いただいたご意見を基に、関係課の連携を一層進め、今後の取り組みの充実に活かしていきたいと思います。

以上で、予定の議題について、すべて終了いたしましたので、議長の職を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

事務局（総務課）

閉会のあいさつを相沢教育長にお願いします。

教育長

本日は、令和8年度第1回目の東松島市総合教育会議を開催させていただきました。冒頭に市長からもお話がありました通り、市長と教育委員の皆様が直接話し合うことのできる、年2回のうちの貴重な1回目でございます。本市の教育の在り方について、大変熱心かつ建設的なご協議を賜り、心より感謝を申し上げます。

協議事項1では、今年4月に実施した標準学力調査の結果に基づき、本市の学力向上の取り組みについて共有させていただきました。

小学校における国語・算数の高い正答率や、調査を開始した令和3年度と比較して下位層が減少し、中位・上位層が増加しているという成果が見られました。これは、本市が組織的に進めてきた「RPDCA サイクル」や、聞き合い・学び合い・支え合いを重視する「探究と協同の学び」が教育現場にしっかりと定着し、着実に進んでいる証であると感じております。

一方で、中学校における英語の課題など、依然として取り組むべき点も明確になりました。変化の激しいこれからの時代において、自ら問いを立て、他者と協同して課題を解決する力を、「誰一人取り残さない教育」の理念のもとで、今後ともしっかりと育んでまいります。

協議事項2におきましては、「目指す15歳の姿」を核とした幼保小中連携について、委員の皆様から大変貴重なご意見をいただきました。本市が作成している「幼保小の架け橋カレンダー」を通じた教員間の交流、年長児と小学生の交流、さらには年長児同士の交流など、様々な具体例も紹介させていただきました。今後は、市長部局と教育部の連携をさらに深め、早期支援や継続的な支援に取り組んでまいります。それにより保護者の皆様の不安を解消し、本市が「誇れるまち」、「選ばれるまち」であり続けられるよう、施策を進めてまいります。

結びになりますが、本日いただいた貴重なご意見を、市の第3次総合計画および教育振興基本計画の推進にしっかりと生かしてまいります。「東松島プライド」を胸に、次代を担う子どもたちの可能性を最大限に広げていくために、私たちが何ができるのか、何をすべきなのかを、今後とも皆様とともにしっかりと考えていきたいと思っております。

本日は誠にありがとうございました。

事務局（総務課）

以上をもちまして、令和8年度第1回東松島市総合教育会議を閉会いたします。